平成30年６月宮崎県定例県議会

観光振興対策特別委員会会議録

平成30年６月22日

場　所　第５委員会室

平成30年６月22日（金曜日）

午前10時０分開会

会議に付した案件

○概要説明

商工観光労働部

１．スポーツランドみやざきの現状と今後の展開について

○協議事項

１．県内調査について

２．次回委員会について

３．その他

出席委員（11人）

委員長	黒木正一
副委員長	西村賢
委員	星原透
委員	井本英雄
委員	松村悟郎
委員	二見康之
委員	日髙陽一
委員	太田清海
委員	満行潤一
委員	重松幸次郎
委員	井上紀代子

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

商工観光労働部長	井手義哉
商工観光労働部次長	中原光晴
観光経済交流局長	酒匂重久
部参事兼商工政策課長	小堀和幸
観光推進課長	岩本真一
スポーツランド推進室長	丸山裕太郎

事務局職員出席者

政策調査課主査	持永展孝
総務課主幹	木佐貫真一

○黒木委員長　皆さん、おはようございます。ただいまから観光振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてでありますが、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、商工観光労働部から、スポーツランドみやざきの現状と今後の展開について説明をいただきます。

その後、委員会の県内調査等について御協議いただきたいと思いますが、そのように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、そのように決定いたします。

それでは、執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時１分休憩

午前10時２分再開

○黒木委員長　おはようございます。それでは再開いたします。

本日は、商工観光労働部に御出席いただきました。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手

元に配付の出席者配席表にかえさせていただきたいと存じます。

それでは、概要説明をお願いします。

○井手商工観光労働部長　おはようございます。商工観光労働部の井手でございます。

前回の委員会では、本県の観光の現状と課題について、及びスポーツキャンプ・合宿の状況について御説明させていただきました。本日は、お手元に配付しております資料の目次にありますとおり、スポーツランドみやざきの現状と今後の展開について、商工観光労働部のほうから説明させていただきます。

詳細につきましては、この後、担当室のほうから座って説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

私からは、以上でございます。

○丸山スポーツランド推進室長　それでは、私のほうからスポーツランドみやざきの現状と今後の展開について御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

１ページをごらんください。

初めに、資料１、平成29年度県外からのスポーツキャンプ・合宿の受入状況について御説明させていただきます。

まず、１の平成29年度の状況、29年４月から30年３月までの通年の状況でございますけれども、ごらんのとおり、プロ野球やＪリーグなどのプロ、社会人、学生などのアマチュアを合わせまして1,259団体、参加人数３万1,897人、延べ参加人数19万6,835人という結果になりました。

主なポイントでございますが、団体数と参加人数はやや減少したものの、韓国プロ野球の秋季キャンプなど、長期のキャンプ・合宿を行った団体がふえたため、延べ参加人数は過去２番目となりました。

下の折れ線グラフをごらんいただきたいのですが、27年度が、ふるさと旅行券の効果もありまして、過去最高に伸びまして、その翌年度、28年度が熊本地震の影響でマイナスと、この２年間、特殊要因による増減もありましたけれども、ことしを入れますと、おおむね右肩上がりで推移しているのではないかなと考えております。

２ページをお願いいたします。

２の春季キャンプの状況でございます。これが、平成30年１月から３月、今春の状況でございます。

まず、（１）の団体数、参加人数、観客数等でございますが、ごらんのとおり、今春は461団体、参加人数が１万3,196人、延べ参加人数が10万4,130人という結果になりました。

主なポイントですが、Ｊリーグの受け入れが３チーム減少したものの、団体数、参加人数、延べ参加人数ともに前年度を上回り、特に、延べ参加人数につきましては、韓国学生団体の長期合宿もありまして、過去最高を記録いたしました。

また、観客数につきましては、２年ぶりに日本一となったソフトバンクの歓迎パレードや巨人軍宮崎キャンプ60周年記念のＯＢ戦などもございまして、前年度を上回ったところでございます。

次に、経済効果であります。

まず最初に、経済効果なんですが、これは、キャンプ参加者、それから観客などの直接消費額や波及効果を産業連関表等で推計したものでございます。延べ参加人数や観客数の増加等によりまして、今春キャンプの経済効果は約129億9,700万円と過去３番目を記録いたしました。

一方、ＰＲ効果ですが、約57億円と、対前年比マイナス35％となりました。ＰＲ効果は、テ

レビや新聞で紹介された宮崎キャンプの内容を広告料金に換算したものでございまして、ことしは平昌冬季オリンピックと重なり、その露出が大幅に減少したため、こういう状況になりました。ちなみに、４年置きにこういう傾向が出ております。

３ページをお願いいたします。

次は、資料２、東京オリパラ等に向けたナショナルチームの誘致・受入状況を御説明させていただきます。

まず、１のラグビーワールドカップに向けたキャンプ誘致状況でございます。

おかげさまで、イングランドにつきましては、ラグビーワールドカップ組織委員会から公認キャンプ地の内定をいただきました。

また、日本代表につきましては、先月末、強化試合のトレーニングとして、３年ぶりに宮崎合宿が行われて、関係者から改めて高い評価をいただいたところでございまして、前回大会と同様、「再び宮崎で長期の合宿を」、と引き続き誘致活動に努めているところでございます。

次に、２の東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致状況でございます。

ごらんのとおり、ドイツ、イタリアなど７カ国に誘致活動を行っておりまして、現時点では、ドイツの陸上が事前キャンプがもう決定というところになっております。

また、キューバを除きます６カ国には、現地視察まで対応いただいておりまして、さらに、ドイツの柔道、それから、イギリスのトライアスロン、パラトライアスロンのチームは、別の国際大会に合わせた合宿まで受け入れたところでございます。

なお、大変申しわけないのですけれども、この資料で、イギリスの表記がパラトライアスロンという表示になっているんですけれども、トライアスロンとパラトライアスロンの両方ございまして、資料の修正は後ほど訂正部分をお渡しさせていただきますんで、申しわけないんですけれども、よろしくお願いいたします。

それでは、４ページ、次のページでございます。

次は、３ということで、本県における近年の国内の代表合宿の実績でございます。ごらんのとおり、シーガイア周辺が競技別拠点施設に指定されているトライアスロンなどを初め、野球、陸上、スピードスケートなど、さまざまな日本代表クラスの合宿が本県で実施されております。今後とも、その誘致・受け入れに努めてまいりたいと考えているところでございます。

５ページをお願いいたします。

次は、資料３、平成29年度県内で開催された主なスポーツイベントについてでございます。

初めに、１の国際大会でありますけれども、まず、（１）のＩＳＡ世界ジュニアサーフィン選手権であります。これは、日向市お倉ヶ浜に41の国と地域から344人の選手が集いまして、４万人に近い観衆で大変なにぎわいとなった大会でございます。

そして、この大会の様子は、インターネットで中継されて、世界中に情報を発信されたほか、日向市内の全小学校の児童が応援に訪れるなど、積極的な文化交流も行われたところでございます。

また、（２）のＩＴＵトライアスロンワールドカップでありますけれども、これも24の国と地域から、エリートの部87人、エイジの部452人の参加がありまして、大会の様子はインターネット中継を通じて世界中に情報を発信されたほか、東京オリンピック・パラリンピックに向け、イ

タリアチームの視察もこの機会に対応したところでございます。

６ページをお願いいたします。

（３）のＪＥＮＥＳＹＳ2017日ＡＳＥＡＮＵ―16サッカー交流大会でございます。これは、外務省が推進しております対日理解交流促進プログラムの一環として、16歳以下のサッカー交流の大会として実施されたものでございまして、海外から229人の参加者がありまして、本県のＵ―16選抜も出場いたしまして、国際的な交流にもつながった大会でございました。

次の７ページをお願いいたします。

これは、２の地域の特性を生かした主なスポーツイベントの市町村別の一覧でございます。

ごらんのとおり、まず、宮崎市青島太平洋マラソン、それから、都城市で言えば都城全国弓道大会、延岡ですとゴールデンゲームズｉｎのべおか、日向ですと日向ひょっとこマラソン、それから、高鍋ですとロータリーカップミニラグビー大会、諸塚ですと九州玉入れ選手権、高原ですと霧島登山マラソン、とございますけれども、こうした地域のそれぞれの特性を生かしたスポーツイベントというのがたくさん実施されておりまして、県外からも多くの参加をいただいているところでございます。

こうしたスポーツイベントは、直接的な経済効果はもとより、魅力の発信や地域の活力づくりに寄与するものであることから、県といたしましては、観光情報サイトを通じてＰＲを行うとともに、参加者等の延べ宿泊者数に応じた助成を行うなど、開催の後押しをしているところでございます。

次のページをお願いいたします。

資料４、スポーツ観光実態調査の概要でございます。この調査につきましては、本県のスポーツ観光に関する実態を明らかにし、今後の施策に生かそうということで、昨年度調査をしたものでございます。

まず、１のプロ野球キャンプ地観光動態調査についてであります。

この調査につきましては、平成28年、29年、春季、秋季の１軍５球団のキャンプを訪問された方を対象に、携帯の位置情報を活用してビッグデータという手法でまとめたものでございます。

調査結果につきましては、まず、（１）の発地別の来訪者及び旅程でありますけれども、スポーツ来訪者全体の９割が九州圏内で、１泊以上した者の割合は36％、九州内では、福岡からの来訪者の５割程度が県内に宿泊しているという結果になりました。

その下に、平成28年と29年の春季来訪者数、２月の県内延べ宿泊者数を掲載しておりますけれども、２月の県内の宿泊者につきましては、春季キャンプの来訪者が本当に大半を占めているというものが推測されるところでございます。キャンプによる宿泊効果というのを改めて感じるところでございます。

10ページをお願いいたします。

次は、（２）周遊ルートということで、球場に来られた方がどのように周遊されているのか、来訪者の多い順に上位10ルートを記載させていただいております。

ルートの順位につきましては、表の一番下、調査対象3,019人中、約４割の1,178人の観戦者が複数の施設・エリアに立ち寄っています。

また、上位３ルートは、宮崎市内の各球場から宮崎市中心部ということで、飲食、買い物で立ち寄っていただいている方が多いのではないかと思われております。

（３）では、球場以外の立ち寄りエリアの上位11カ所を掲載しておりますけれども、観光地の立ち寄りとしましては、６位の青島、10位の鵜戸神宮など、限定的な結果がありまして、滞在時間も比較的短い結果となっております。

11ページをお願いいたします。

これ以降の調査に幾つかあるんですけれども、調査につきましては、それぞれの認知度、興味、関心度などを定性的に捉え、今後の参考とするため、インターネットを活用してアンケートとして調査をしたものでございます。

まず、２のスポーツキャンプＷｅｂ調査、キャンプの関係のアンケートということでございます。

調査結果の概要につきましては、（１）の来訪目的にありますように、３分の２がキャンプ見学がメーンで、３分の１は観光もということでございます。

また、関東、関西につきましては、観光目的も半分以上を占めているという状況がございます。

次に、（２）のキャンプ以外の来訪時の行動につきましては、ご当地グルメやお土産の購入をしている方の比率は高くなっているものの、観光地めぐりなどの項目は低い結果となりました。

12ページをお願いいたします。

次は、３のサーフィンＷｅｂ調査、同じように、サーフィンに関するアンケートでございます。

（１）の宮崎でのサーフィン経験ということですけれども、県外在住のサーフィン経験者のうち、本県でのサーフィン経験のある者は約40％で、特に、九州在住者の３分の１が２回以上のリピーターであるなど、比較的リピーター率が高いことがわかりました。また、年代、世代別で見てみますと、６回以上のリピーターは40代男性が多くなっております。

一方で、関西、関東と遠方になるほど来訪経験なしがふえており、サーフィンの環境のよさをもう少し十分に伝えていく必要があるかなという状況も伺われます。

13ページをお願いいたします。

次は、サーフィン関係の来訪の理由でありますけれども、波がよい、気候が温暖などの環境のよさが評価されているほか、誘われたからも多く、来訪経験者が知人・友人を誘っているという状況も伺えるところでございます。

次に、（３）の来訪時の行動でございますけれども、上位６項目を掲載しておりますが、現地の行動は、ご当地グルメ、お買い物、お土産、温泉が多く、宿泊を伴うことから、ご当地グルメの夕食も高くなっております。

14ページをお願いいたします。

次は、ゴルフの関係のアンケートでございます。

（１）の宮崎でのゴルフ経験ですが、県外在住のゴルフ経験者のうち、本県でゴルフしたことのある人は約２割であり、首都圏・関西圏では、ゴルフ環境のよさなどが、まだ十分に伝え切れていない状況が伺えます。

また、（２）の来訪理由でありますが、本県のゴルフコースの質や温暖な気候に惹かれて来訪している方が多いことも伺われます。

15ページをお願いいたします。

（３）の来訪時の行動でありますが、現地での行動は、ご当地グルメ、お買い物、温泉が多いという結果になっており、サーフィン同様宿泊を伴うことから、ご当地グルメの夕食が高いものと思われます。

16ページをお願いいたします。

５のサイクリングの関係のアンケートＷｅｂ調査でございます。

（１）のサイクルツアーの関心度ですが、本県のサイクルツアーの興味関心は全体で約２割強で、若い年代ほど関心が高い結果となりました。

17ページをお願いいたします。

その関心が高い方を対象に、具体的なニーズを（２）に取りまとめておりまして、本県でのサイクルツーリズムにつきましては、海岸線を一望しながら回るコースや、ダイナミックな自然の風景を満喫しながら回るコースなど、都会では味わえない走りに対するニーズが高くなっております。

19ページをお願いいたします。

最後に、資料５、スポーツランドみやざきの今後の展開でございます。

スポーツランドみやざきの今後の展開でございますけれども、国際水準のスポーツの聖地みやざきへの進化、全県化・通年化・多種目化の推進、スポーツを切り口にした観光客の誘致という３つの柱で取り組んでいきたいと考えております。

まず、１の国際水準のスポーツの聖地みやざきへの進化でありますが、いよいよラグビーワールドカップが来年、そして、東京オリンピック・パラリンピックが２年後に迫ってまいりました。

先ほど御説明したとおり、各ナショナルチームのスポーツ合宿の誘致・受け入れを積極的に行い、スポーツキャンプの聖地みやざきを国内外に情報発信していくほか、国際級の大型イベントスポーツを開催することにより、スポーツランドみやざきのブランド向上を図ってまいります。

具体的には、１のナショナルチームの合宿誘致・受け入れといたしまして、ラグビーの日本代表やイギリスのトライアスロンチームなど、これまで本県で合宿を行ったチームへのフォローアップのほか、新たなチームの視察やプロキャンプも積極的に対応していきたいと思います。

また、本番の事前合宿に向けて、施設整備など受入環境の向上や国内外への情報発信にも努めてまいります。

特に、来年のラグビーワールドカップは、九州には試合会場が３カ所、そして、公認チームキャンプ地が本県を含め３カ所という大きなセールスポイントがありますので、九州観光推進機構と連携して、海外への情報発信を九州一帯で行っていければと考えているところでございます。

また、（２）の国際スポーツイベントの開催といたしまして、本年度は、ごらんのとおり、野球、トライアスロン、サーフィンの国際大会を開催する予定でございます。

大会を通じ、本県のスポーツ環境の魅力をＰＲしていくほか、関係者の視察や合宿等を積極的に受け入れ、東京オリパラの事前合宿の誘致にもつなげてまいりたいと思います。

次に、２の全県化・通年化・多種目化の推進であります。

スポーツ誘客による経済効果を県下全域に広げられるよう、みやざき観光コンベンション協会や市町村と連携しながら、スポーツランドみやざきの全県化・通年化・多種目化を積極的に推進してまいります。

具体的には、（１）の学生・社会人などさまざまな団体の合宿誘致といたしまして、本年度は、今議会で補正をお願いしておりますガイドブックの作成や合同誘致セミナーのほか、スポーツ

合宿受け入れに必要な環境整備など、市町村と連携した取り組みを積極的に展開する予定にしております。また、韓国や台湾など海外チームの合宿誘致にも努めてまいりたいと考えております。

また、（２）の地域に根ざした各種スポーツイベントの開催といたしまして、先ほど、大会の実績で触れましたように、観光情報サイト、ＳＮＳ等を通じたＰＲを行うとともに、宿泊者数に応じた助成を行うなど､積極的な後押しを行ってまいりたいと思います。

次の20ページをお願いいたします。

最後に、３のスポーツを切り口とした観光客誘致でございます。

スポーツランドみやざきの強みを観光誘客にも生かしていこうという考えでございまして、キャンプ地以外の周遊観光等を促進する取り組みを行うことで、来訪効果を高めるとともに、本県の新たなスポーツ観光の魅力であるサイクリングなど、スポーツを切り口とした観光誘致の取り組みを推進することとしております。

具体的には、（１）宮崎ならではの「見る」スポーツによる誘客といたしまして、プロスポーツキャンプの来訪者につきましては、先ほどの調査結果で課題と伺われた観光地等での周遊促進や、消費額の拡大の取り組みについて、関係自治体と連携のもと、検討を実施してまいりたいと考えております。

また、（２）の「する」スポーツといたしまして、サーフィン、ゴルフにつきましては、県外、特に大都市圏での知名度が低い状況が伺われましたことを踏まえまして、航空会社やゴルフ関係のメディア等と連携したプロモーション強化に取り組むこととしております。

また、サイクリングにつきましては、市町村やサイクリング協会など関係機関と連携し、モデルとなるサイクリングコースの設定や推進体制の整備等に取り組んでまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○黒木委員長　執行部の説明が終わりました。

御意見、質疑がありましたら、お願いいたします。

○満行委員　ビッグデータを使った分析など、今までなかった取り組みじゃないのかなと思って、今後の展開に大いに期待をしたいと思いますが、この今後の展開ですね、一番最後にありましたが、やっぱり口コミというか、行った人が、そこの情報をＳＮＳを使って感想を述べたり、写真をアップしたりという、その口コミが今、非常に大きな力になっている。

私もいろんなところに行って、写真を撮ってアップして、誰が見てるのかわからないけれども、相当ＫＯＮＮＥとか、ヒットしているんですよね。そういう意味ではなかなか無視できない、とりわけ若者には大事な情報だと思うんです。ここに外国のキャンプとかいろいろ来てますけれども、スタジアムとか広いですよね、その通信環境が、Ｗｉ―Ｆｉの整備状況とかがどういう環境なのか、わかる範囲で教えてください。かなり広いのに、本当にＷｉ―Ｆｉ使えているのかなという気がします。

○岩本観光推進課長　現在、５チームのプロ野球球団がキャンプをやっておりますけれども、球場内にはＷｉ―Ｆｉの設置はされていないということのようでございます。

○満行委員　データを見ても、相当な人たちがそのキャンプを見にきている。その人たちがどんどんその映像や画像をアップすることによって、その友達とか、野球場なら野球場を探して

いる人が、そのＳＮＳの情報を見るというようなことが、複合的にあると思うし、そこにいた人が４月、５月、６月になっても写真とかいっぱいアップしているわけで、無償のデータベースみたいな感じになります。今までずっと議会からもお願いをしているところなので、ぜひ、部を挙げてというか、県庁を挙げて、Ｗｉ―Ｆｉの整備促進をお願いします。県が直営でやれって言うわけじゃありませんから、いろんな市町村なり、団体なり、施設なりにいっぱい協力するというか、そういうアプローチ、支援をぜひ、していただきたいなと思っております。

○丸山スポーツランド推進室長　先ほど、観光推進課長から、常設として球場のほうには設置していないという状況である、ということであったんですけれども、トライアスロンワールドカップとか、昨年のサーフィン日向での大会とか、大きな大会のときにはＮＴＴに移動式のＷｉ―Ｆｉを設置していただきまして、そういう環境を整えたところでございますので、大きな大会、ＮＴＴとの協議も必要になるんですけれども、その辺のところも含めて、これから協議を重ねてまいりたいと思います。

○満行委員　ぜひ、よろしくお願いします。

○井本委員　そのＷｉ―Ｆｉは、他県あるいは外国なんかはどのくらいの充実度なの。

○岩本観光推進課長　他県の状況については、ちょっと把握しておりませんが、国のほうで、共通の認証でアプリで入れるジャパンコネクティッドＷｉ―Ｆｉというようなものがございまして、これが、九州内で１万を超えるアクセスポイントがあるというふうに認識しております。

県内におきましては、「ＭＩＹＡＺＡＫＩ　ＦＲＥＥ　Ｗｉ―Ｆｉ」という共通認証でアクセスできるＷｉ―Ｆｉ、これは、県の基盤を県内観光地に９カ所設けまして、それをつなげるアクセスポイントをそれぞれ市町村とか民間がだんだんつくってきておりまして、平成29年度で、県内のアクセスポイントが、市町村、民間含めて76カ所ございます。

○井本委員　いや、私が聞きたいのは、我が国のＷｉ―Ｆｉの普及がおくれているのか、どうなのか。

○井手商工観光労働部長　海外と我が国との通信環境の差のお話だと思います。

我が国は、現時点において、Ｗｉ―Ｆｉと、いわゆる携帯電話も携帯の通信網を主に使っておりますが、今の世界の状況からすると、Ｗｉ―Ｆｉではなくて携帯系の通信網がほぼ主流になってきておりまして、いわゆるＳＩＭカードと言われる、携帯を買われるとカードを入れられると思うんですけれども、あれがフリーで使えるようなものができております。

海外でも、空港等に行かれると、時々そのフリーのＳＩＭカードを借りて、携帯に入れて、その国の中で、携帯でインターネット等もつながりながら移動していくというようなのが、最近では主流になってきております。

そういう意味で、アジアも海外でのＷｉ―Ｆｉ環境よりもＳＩＭカードにだんだん移っていっているというふうに、今、認識をしております。

しかも、最近の技術からすると、携帯の電話網もＬＰＷＡと申しまして、ロー・パワー・ワイド・エリアという低コストで省電力で動くような携帯電話網みたいなものが新しい技術で入ってきていまして、その方向でＳＩＭカードも動いているというふうに聞いております。

世界の通信環境とか通信技術は日々進歩して

いますので、その辺を見定めながら、Ｗｉ―Ｆｉでいくのか、ＳＩＭカードに移っていくのか、国の動向も見定めながら整備を考えていかなければならないというふうに認識しております。

○満行委員　部長はそうおっしゃるんですけれども、僕、前に高いＷｉ―Ｆｉを行政が整備するよりは、ＳＩＭを配ったほうがずっと安いんだ、って申し上げたんです。

東南アジアは、とりわけ有線が普及していないので、無線が先に進んで、そういう意味では、東南アジアのほうが無線環境が進んでいる地域がかなりあると思うんです。

でも、日本ではどうかというと、ＳＩＭはまだ全然高くて、我々がヨーロッパとか東南アジアとか行くと、１日で数百円もかからない格安ＳＩＭがあって、それは、あの広い東南アジアの国々に行っても、隣の国に行こうが、全部それでつながるという状況ですけれども、日本はその中に入らないわけですよね。

だから進まないといけないんだけれども、今の日本のこの状況じゃ、高どまりで進まないので、県がやるというよりは、いろんなところとタイアップというかコラボして、先ほど言ったように、ＮＴＴとかにいろんな協力をいただいて、せっかく何万人も、全国や世界からも参加者が来たりするのに、そこで情報発信ができないと不便だと思うんです。我々が外国のときには、アップしやすいけれども、外国の人が日本に来たら、日本の環境は非常に弱いんで、データや画像とかがアップできないという、そのギャップを埋めるためには、今のところは、やっぱりどうにかして、Ｗｉ―Ｆｉなりの環境をそろえると、外国人やいろんな人が来たときに、ビッグデータが出しやすいということですので、ぜひ、そこは部としても頑張っていただきたいなと思います。

○井手商工観光労働部長　満行委員、おっしゃるとおりであります。先ほどの答弁は外国と我が国との整備のお話ということで御理解いただければと思います。

本県におきまして申し上げますと、通信環境、まだまだのところがありまして、特に、おっしゃるとおり、せっかくこれだけのスポーツキャンプに訪れていただいているのにもかかわらず、スポーツ施設での通信環境が整っていないというふうに認識をしております。

これについては、今後、きちんと整備をしていかなければならないと思っていますし、その整備の仕方についても鋭意検討してまいりたいと考えております。

○岩本観光推進課長　スポーツキャンプの通信手段につきまして、Ｗｉ―Ｆｉは設置してはおりませんが、キャンプに訪れる観客については、国内、日本人がメーンでございますので、通常の携帯電話のラインですとか、あるいはインスタグラムとか、そういった形で情報を口コミで広げていくというようなことは、既にもう行われているところであると思っております。

○二見委員　ちょっと細かい話なんですけれども、意外とこのトライアスロンという競技、競技人口なり、また、その観客というのも結構来るんだなというのを改めて感じたところなんですが、本当細かい話です。

テレビ番組のことなんですけれども、日曜日の夜８時からある「世界の果てまでイッテＱ！」という番組があるのを御存じですか。あの番組で、24時間テレビのマラソン枠で、みやぞんという芸人の方がトライアスロンにチャレンジされるという発表があったと思います。

この間の番組では、アフリカかどこかの砂漠

みたいなところを走っているような映像がちょこっと出たりしました。たしか60日後ぐらいに、この24時間テレビというのは放送されるんだと思うんですけれども、これからずっと国内でトレーニングをされていくに当たって、本県での合宿じゃないけれども、番組の一環でも使ってもらえることができれば、テレビ局も一緒についてくるわけなので、非常に効果というのも大きいのかなと思うし、これは、今しかないタイムリーな話題かなとも思うんですけれども、そこら辺のアプローチとか何かありますか。

○丸山スポーツランド推進室長　そのあたりは、全然検討の視野にも入ってないんですけれども、すばらしいアイデアをいただきました。おっしゃいましたとおり、ことしは、トライアスロンをテーマにした新しい切り口で盛り上がるというのは、本当にそのとおりかなと想像いたします。

トライアスロンにつきましては、今、本県のシーガイア周辺が国の指定を受けた、まさにキャンプの聖地というような形で、高い評価を受けているところでございまして、その関係で、イギリスも来られましたし、大会も行われますし、そういった意味で、トライアスロン関係者とのつながりというのは、非常に深くなっております。

今回の件で、マスコミやテレビ局の方に対し、そういったアイデアで何かつながるという御提案、実現できるかどうかわからないんですけれども、何かの機会がありましたときに、そういうアイデアはいかがなものでしょうかということで、ぜひおつなぎしてみたいと思います。どうもありがとうございます。

○日高委員　このスポーツで誘致というのは本当にすばらしいなと思います。僕も３年前ぐらいですか、青太に出たときに、たまたま隣が焼肉屋さんの店長さんで、そしたら、オープンして十何年目なんですけれども、きのう、もう売り上げは最高を記録しました、と言ってました。だから、青太の前の日に、選手がお肉を食べるために朝から晩まで予約がずっと入っている、という話を聞いて、やっぱり経済効果ってすごいんだなと。

先ほどありましたけれども、観光客の方が観光に来るというと、鵜戸神宮とか青島とか、いろいろありますが、観光地に１回来ると、２回目行こうかなというのは、それが何年後なのかっていう感じになります。

一方で、スポーツイベントとなると、毎年来たいという気持ちになると思うんですけれども、いろんなスポーツのイベントがあるだけに、全国にどういう発信をされているのでしょうか。

○丸山スポーツランド推進室長　情報の発信についてでございますけれども、基本的には、今、御説明をいたしましたとおり、旬ナビという宮崎の観光の情報サイトに随時情報を流したりとかいうことが中心となっております。あとは、ことしの新たな取り組みといたしまして、新宿ＫＯＮＮＥに新しくディスプレイ、デジタルサイネージが使えることになりましたので、今度、そこでトライアスロンの関係をはじめ、いろんな大会の告知をしっかりやっていこうということで、その準備も進めているところでございます。

あと、ポスターなどは、これまでいろんなところで配布しているんですけれども、新たなところでの情報提供を、それから、関係者、例えばスポンサーとなっている企業とも連携しながらポスターを張ってもらったりとか、例えば、今回、８月28日に、久しぶりにオリックスの公式戦がありますけれども、そういったものもス

ポンサー企業さんとか、関係自治体さんとか、皆さんで協力してＰＲや誘客を働きかけているところでございます。

○日高委員　青太とかは、もうＰＲせずに一瞬でいっぱいになってしまいますので、ぜひ、ほかの大会も全ていっぱいになるようにしていただきたいと思いますし、また、オリックスも満席にしていただきたいと思います。

すみません、別件で、この国際イベントを、今後どんどん誘致していきたいということについて、武道館ありますよね、あれは、国際大会ができるレベルの施設なんでしょうか。それとも、ちょっと足りないかどうかとか、わかりますか。

○丸山スポーツランド推進室長　イベントの大会の規模にもよるかと思うんですけれども、詳細にお答えできる材料を持っていないのですが、例えば、フランスの剣道チームが、今、合宿に来ていただいていて、武道館とか警察学校とか、いろいろ県内に行かれてますけれども、武道館とか、鵜戸神宮、まさに、剣法の発祥の地といったところで、非常に興味を持っていただいておりまして、そういった宮崎の武道というのも、いいＰＲポイントになっていくのではないかなと思っておりますので、あとは、今の県の施設がどこまでのキャパで対応できるかというのは、確認してみたいと思います。

○日高委員　わかりました。関係者によると、柔道の国際大会は武道館では難しいんじゃないかなという話も聞いておりまして、これから、いろんな施設ができる中で、国際大会の基準に合わせて、誘致されるんであれば、ぜひ検討していただきたいなと思います。

以上です。

○丸山スポーツランド推進室長　今ちょっと情報を確認いたしましたけれども、競技スペースとしましては、例えば柔道でいきますと８面とれるとか、面積自体は十分競技スペースはあるんですけれども、観客席が1,500席という席数しかないので、大きな大会まで開かれるかどうかというところは、ここがネックになっているというような状況でございます。

○日高委員　ありがとうございます。

○重松委員　先ほど、満行委員からＷｉ―Ｆｉの設置のこととかもありましたが、きょういただいた資料の中には、要するに、宮崎にキャンプに来て、ちょっと不満に思うこととか、物足りない部分とか、こうして欲しいとか、そういう要望のことがここにはない。九州の観光推進局の資料のように、例えば通訳者がいないとか、いろんな宿泊施設がまだ外国人仕様になっていないとか、バリアフリーのことも含めて、というような形で、宮崎キャンプにおける、未設置の部分とか不満に思うこととか、そういうことを集計したものが何かないんでしょうか。

○岩本観光推進課長　キャンプ地での見学における不満というものについてもアンケート調査をやっておりまして、１番目が、やはり会場までの交通手段が不便だということが、これは44.5％ございます。それから、続きまして、駐車場が混んでいるというようなことが30.9％、あと、会場内が混んでいるというようなこと、これは、逆に言うと、捉え方がいろいろあると思いますが、30％と。あと、寒いというのが24％ありますが、人によってかなと思っております。

あと、最後に、５番目ですが、キャンプ地での情報が少ないとうのが、これは17.9％ございますので、このあたりについては、しっかり、今後対応していかなくちゃけないのかなと思っているところでございます。

○重松委員　わかりました。そういうようなことも含めて、まだ足らない部分をしっかりリサーチしていただければというふうに思います。

○二見委員　ちょっとすみません。３ページのこのオリパラ事前キャンプ誘致状況の中で、非常に目を引いたところが１カ所あるんですけれども、このアゼルバイジャン、どうして来られたのかなと思って。どういう情報でここに来られたのか、行ってみたい国でもあるんですよね。たしかロシアから独立した国だったと思います。あそこは石油産出国で、１秒間に何万リットルと、ずっと石油が出続けている国で、非常に豊かな国というふうに伺っているんですけれども、こういうところが、実際、視察に来られたということで、どういうネットワークで来られたのか。また、できれば、こういうところのパイプというのは太くしていったほうがいいんだろうなと思うんですけれど、どのようになっているんですか。

○丸山スポーツランド推進室長　アゼルバイジャンは、おっしゃったように非常に豊かな国というようなことで、本当に御縁があったんですけれども、その御縁といいますのが、昨年７月に、アゼルバイジャンで市場調査を行っている民間の宮崎市内の広告代理店の方から、御紹介がありまして、事前合宿の資料と、それから、当時の観光経済交流局長の書簡をアゼルバイジャン政府に送付いたしましたところ、駐日大使の方から打診がありまして、御連絡がありまして、ことし２月に視察までいただいたという流れでございます。

ここに書いてありますとおり、柔道、テコンドー、レスリング、空手と、非常に、武道家を中心とした可能性のあるところですので、ぜひ、ここを、また視察等受け入れを働きかけていきたいと思います。

○二見委員　それも「世界の果てまでイッテＱ！」の情報だったんですけれども。ここは、たしか国が、すごく親日家なんですよね。だから神社とかもあるというふうに、たしか放送されていまして、すごいきっかけから始まったここの視察なんですけれども、ここを視察だけで終わらせるんじゃなくて、どう引っ張っていくかというところですよね。もちろん、ドイツやイタリアや、ほかの国々もそうなんですけれども、その辺をつないで次の手を打つというところは、今、どのように取り組んでいらっしゃる状況ですか。ここの視察を受け入れたところの次の段階というか、対応というのをどういうふうにしていらっしゃるところですか。

○丸山スポーツランド推進室長　視察を受け入れたその後の取り組みなんですけれども、やはり、そこのキーパーソンの方とお会いできたということですね。その方に、どういう状況かということを随時御連絡させていただいて、できれば、機会があれば、次のステップとしては、事前の何か、こちらでアジアとか、日本で大会がありましたら、それに合わせて宮崎で合宿をというようなお話で、本番にぜひ、とつなげるような働きかけをしているところでございます。

あと、大事なのは、今、委員おっしゃいましたように、来られたときに、キャンプに宮崎で合宿していただくだけではなくて、やはり、いろんな交流、後に残るような機会というのが非常に大事になってくるかと思います。

ですから、宮崎の県内の競技の方とか、学校関係の方とか、そういった方に、まさにレガシーとして残るようなことが、それも私たちの一番の仕事ではないかなと思いますので、そこも念頭に入れながら、合宿・キャンプの誘致とい

うのは進めてまいりたいと思っております。

○星原委員　きょう、こうやって資料をいただいて、見させていただいたんだけれども、要するに、県内の前年度分の比較で２番目だとか、１番目だとかっていうこういう報告でいくと、毎年ある程度伸びていくのは当たり前で、私から見ると、宮崎県の状況はこういうことなんだけれども、仮に、九州管内の各県の取り組みで、宮崎と同じようなこういう一覧表をつくったときに、どれぐらいの位置に宮崎が位置しているのか。要するに、そういうところと比較してみないと、これだけだと、ふえている、あるいは、ちょっと減ったのかな、その程度なんですよね。

だから、宮崎が、仮にゴルフならゴルフで、どの国からどれぐらいの客で、ほかの九州、沖縄は特別だろうと思うんで、７県なら７県の状況で、優位に立っているのか、逆に一番下のあたりで、そういうのを見ていきながら、じゃ、次年度はどういう形で、ほかの県並みにとか、あるいは、ほかの県以上にするためには、何が欠けているのかとか、そういうものを一つ一つ分析していかないと、毎年こうでした、あるいは、リピーターで毎年来ている団体とか、いろんなのがあれば、そういうところがほかの県に行かないのか、行ったのかとか、そういう調査とかいろんなものをやっていかないとだめだろうなというふうに思います。

あと、観光地で、ここに青島からいろんな形で一覧表ありますよね。こういうところも来た感じと、去年からことし、来年はどうと、一つずつでも、何かいろんな目的を持って、改良をしていったりして、そういうものがなされていくことで、また、新たに来てもらえる、そういう対応をしていくとか、何かもうちょっと工夫していったほうがいいんじゃないかなと思うんです。

それは、県だけじゃなくて、実際、市町村との連携の中で、市町村との話がどういうふうに行われていて、県が果たす役割と市町村が果たす役割とか、そういうのを分析しながら、少しでも宮崎に来て、観光でもスポーツでもいいんだけれども、いい印象だったから次の年も来るとか、あるいは、仲間に声かけて一緒に行こうとか、いろんなことがあると思うんですよ。

まず、そういったことの一つ一つをうまく積み上げていかないと、私は、この表だけで評価できるかできないかというのは、単なる前年度の比較で、ふえました、２番目ですとかっていうだけじゃなくて、最後のほうで今後の取り組みとか、いろいろ考えるんであれば、こういうスポーツには、今まではこういうことだったけれども、今後はこういう取り組みをしていくんだと、それには県が果たす役割と市町村が果たす役割と、あるいは、いろんな企業にお願いするとか、団体にお願いする部分と、そういったものを比較しながら前に進めていかないといけないと、この表の説明を受けながら私は思ったんですが、その辺は皆さん方、どういうふうに捉えているんですか。

○丸山スポーツランド推進室長　星原委員のおっしゃっていただいたこと、十分理解しますし、非常に大事なポイントではないかなと思っているところでございます。

今、おっしゃいました他県との比較ということでございますけれども、スポーツランドという、このスポーツキャンプ・合宿、それからイベントの誘致というような取り組みというのが、宮崎が読売巨人軍のキャンプとか、そういう長い歴史があって、どちらかというと、宮崎が先行して取り組んできたというところがございま

して、こういう、観光の入込み調査とか、そういったのは、全県つくっているんですけれども、スポーツに特化したこういうデータをつくっているというのが、九州では宮崎、それから、鹿児島が一部そういうデータはつくっているというところは確認をとっているんですけれども、それ以外の県で、比較できるというところのデータがないというのが、実際の現状でございます。

そういった中で、どういう課題があるかというようなことを、やはり分析してデータを収集する必要があるだろうというようなことで、まさに、昨年の、ここに御紹介した調査をして、現状そして課題というのを、今、把握をして、今回把握した調査というのは、やはり県だけで持っていても、施策に生かすという意味では、市町村と一緒にやっておりますので、早速市町村にも同じような、こういう結果でしたよっていうことは情報を共有して、施策を一緒に検討していきましょうという体制を組んでおります。

あと、スポーツランドの関係でいきますと、ことし、実はサッカーが３チーム、Ｊリーグが少なくなったと。これは、非常に危機感を覚えておりまして、好調ということでは公表はしているんですけれども、マイナスになったこのサッカー、Ｊリーグの対応につきまして、関係市町集まっていただきまして、課題がどういうところがあるのか、どういう対応が必要なのかということを皆さんで共有して、なかなか沖縄という強力なライバルがおりますので、そこに関して、どういうように対応できるかというのは、なかなか対策というのがすぐには出てこないところがあるんですけれども、今、それぞれの地域での課題、各市町村で一緒にやれることとか、県と一緒にできることとか、いろんな助成的なこともありますので、そこも含めて情報を共有したところでございます。

○星原委員　今、サッカーの話が出たんで、実は、都城の高城のグラウンドにＦＣ東京というチームが13年間来ていたんですよね。ことしから沖縄に行った。

私は、この前、東京へちょっと行って、ＦＣの社長と会っていろいろ話したけれども、要するに、結局、監督がかわったんで、宮崎じゃなくて、沖縄を監督が選んだんで、今回しょうがない。都城に来てくれないかとは言ったけれども、すぐには来ないだろうなという感じはしたんですけれども。

やっぱり、私は、県でも、あるいは市町村でも、いろんな団体でもそうなんですけれども、要するに、人的関係なんですよ。どうやってね、そういう来てくれているところのチームと、人間関係、信頼関係をつくっていくか。もう長く続いてくると、つき合い方とかいろんなことが当たり前みたいにやられてしまう。新しいところは、開拓するために積極的にいろんな形でアプローチしていくわけですから、せめて、それと同じくらいのアプローチのかけ方とか、人間関係とかっていうのをつくっていかないと負けるだろうなというふうに思うんですよ。

だから、人的なそういう結びつきを強くするために、今後どうやっていくのか。

だから、さっきから言う、県の果たす役割、県だけでもだめで、市町村なら市町村と力を合わせて連携をとりながらいかないと、そういうことも生まれないということだね。ジャイアンツでもそうなんだけれども、ジャイアンツはずっと宮崎だったけれども、やっぱり、その抜かれていく原因が、向こうが沖縄なら沖縄はいい施設があったり、あるいは、気候の問題があって、

これは、自然には勝てないと思うんだけれども、じゃ、自然に勝てないところを人間味だとか、地域でフォローできる地域の、地元のいろんな方々もそういうキャンプに来たときに、側面からの応援ができる体制を仕掛けていくとか、いろんなことを、こうやって人間関係でがんじがらめに捕まえていかないと、これから厳しいだろうなと。スポーツキャンプであれ、観光であれ、企画であれ、国内のどの県も同じようなやり方でやっていくんですよね。そういう中で、宮崎ならではとか、おもてなしだとか言われているけれども、本当にそういうことが地域を挙げて行われているのかな。

地域を挙げて、そういう形で誘致してきたところが、今後そこに根ざしてもらうための工夫をしていかないといけない、ただやっているんですというだけじゃだめだと思うんですよ。そういうことを、今後いろんな意味で検討していってほしいなと思うんですが、その辺はどうなんですか。

○丸山スポーツランド推進室長　今、まさにおっしゃっていただいたとおりでございまして、先ほどもお話ししました市町村との会議でも、やはり何をすべきかといったときに、ＦＣ東京につきまして、都城のほうからは、まず御挨拶に行って、次の機会、チャンスがあるのかどうかわかりませんが、御挨拶に行くこと、そして、ほかの球団やチームもそうですけれども、今、来ていただいているところに、危機感を持って、しっかり人的ネットワークをつくっていくというような話が次々と出たところでございまして、県のほうも機会があれば、ぜひ一緒に行って、その熱意というのを伝えてまいりたいと思ったところでございます。

○井手商工観光労働部長　私は過去、みやざきアピール課長で、スポーツランドを担当したこともありますので、少し補足をさせていただきます。

県内にこれだけのスポーツキャンプを受け入れられているということは、星原委員おっしゃるとおり、人的つながりによるところが非常に大きいです。サッカーで言うならば鹿島アントラーズ、ここの監督さんは、若いときから宮崎ファンでありました。なぜ宮崎ファンであったかというと、釣りが好きだったからです。ある釣り船屋の大将がお友達になられて、来られるたびに、今度はグラウンドをとるお世話とかをされて、鹿島アントラーズの監督になられたときから、ずっと来ていただいています。やはり鹿島アントラーズは、Ｊリーグで、センターを走って頂点に行かれていたところでしたので、そのチームで監督がお育てになったトレーナーさん、コーチさんたちが次のＪリーグの監督になられて、そこから広がっていくという状況でございます。

ＦＣ東京のお話をされましたように、そういうふうに監督がかわると、やはり監督さんのおつながりでグラウンドが選ばれるという形になります。我々が考えていますのは、同じように、今、来ていただいているチームの監督さんだけではなくて、そこにいらっしゃるコーチさんたちをきちんとつかまえていくこと、すると、そのコーチさんたちが次のチームの監督になったときに、また宮崎に来ていただけると、そういうようなつながりを考えながら、次の誘致につながるように努力をしていく。これは、サッカーだけではなくて、ほかのラグビーでもそうですし、武道でも同じような形態にありますので、スポーツチームというのは、そういうことを考えながら、次の誘致につながるような努力をし

てまいりたいと考えております。

○井本委員　同じようなことを言おうと思っていたんだ。やっぱり宮崎県の得手・不得手というところをピシっと分析する。そして、いいところは伸ばす、まずいところはなくすという、それをやっていかんと、今後、先はないだろうな。じゃないと、沖縄やらどっかに持っていかれるという話だ。

そして、この前も話したように、最終的にリピーターはホスピタリティーなんですよ。そこの人たちから受ける優しさというか、そういうものが結局、決着する要素が大きいんじゃないかと思う。

だから、宮崎県人のすばらしいところも、もちろん前面に出さないかんのだろうけれども、それを、もうちょっとうまい具合にシステム的にできるものはないものかなとか、そんなことを考えないかんのじゃないかなという気がする。

大体同じことを言おうとしていたところでした。

それと、この最後のサイクリングを取り入れるというのがありましたね。悪いことじゃないんだけれども、なぜサイクリングになったのか、その辺は理由はあるの。

○岩本観光推進課長　サイクリングですが、この辺も、他県でも、愛媛ですか、しまなみ海道とか、いろんな全国的にも大きな大会が何カ所かで開かれておりますが、非常に、やっぱり近年の健康ブームですとか、そういうところで、海外からも含めてサイクリング愛好者というのが多いということがございます。

それと、平成28年12月に、自転車活用推進法が成立、公布されまして、そういった制度面でも、これは二次交通も含めた、あるいは、まちづくりの視点も含めた広い意味での制度ですけれども、その中で、やはりそういったサイクルツーリズムというようなものも、今後推進していこうというようなことも、制度としても立ち上がったというようなこともあります。

特に、本県は、自動車の交通量も、都会と比べてそんなに多くなく、自然環境や景観が何よりもすばらしいということで、日南海岸あたりでは、早くからシーニックバイウェイというようなことで、日南市、串間市なども連携して、官民でそういう取り組みが行われておりましたので、そういった強みを生かしていくべきではないかと考えております。

そして、また、体を動かすと、当然食欲も湧いてきます。そうなると、やっぱり宮崎の食というのも、そこで存分に堪能していただけるのではないかというようなところも含めて、このサイクリングというのは、県内、海、山問わず、いろんなところで、また違ったスタイルのものが展開できるというようなこともあろうかということで、一つの今後の県のスポーツランドの大きな柱として、誘客の柱に据えていきたいなというふうに考えているところでございます。

○酒匂観光経済交流局長　追加で補足をさせていただきます。

前段で、井本委員のほうがおっしゃいました本県の得手・不得手をしっかりと把握して、宮崎のよさであるホスピタリティーを生かして誘致していかなきゃいけない点につきまして、私のほうから発言させていただきますと、まず、誘致しているキャンプに来ているチーム、団体につきましては、先ほど部長からもお話ししましたように、人のつながりをしっかりと大事にしながら、あるいは、我々、本県の強みである食のアスリートフードでありますとか、そういったものをしっかりと提供をしていく、あるいは、

ケアをしていくという、安心してキャンプいただけるような環境づくり、しっかりと市町村と一緒につくっていきたいと思っております。

あと、来られる観光客の皆様方につきましては、先ほど御説明させていただきました、初めてことしスポーツキャンプＷｅｂ調査というのをさせていただきました。その中で、やはりキャンプを見るためだけに来られる方がほとんどで、いかにほかの地域を周遊していただくか、あるいは、食を楽しんでいただくか、そこに課題等はっきりとわかってまいりましたので、しっかりと情報等を提供していくような仕掛けづくり、周遊いただけるような仕掛けづくりを考えていきたいと思っています。

また、星原委員からありました、引き続き、やっぱり把握していく必要があるということでございます。できれば、私ども、このＷｅｂ調査、来年以降もしっかりとやっていって、どのような改善が図れたかということなどもしっかりと把握していければと思っているところでございます。

○井本委員　だから、自転車は、本当に宮崎に合っているかどうかというのは、マーケティングみたいなことをやって決めたわけですか。単に、ああ自転車がいいわという、我々がパッと考えても自転車はいいわなと思うけれども、宮崎が本当に優位的な立場に立っているのかどうか。よく、マトリックスで４つに分けて、脅威と何とかってやるじゃないの。あんなのを一応やってみて、本当に宮崎が優位に立っているのか、自転車を走るところは、例えば道路なんかピシッとなっているのか、その辺のこともきちっとしてから、こういうものに入っているのか、その辺はどうなの。

○岩本観光推進課長　今回、このサイクリングＷｅｂ調査というのをやったんですけれども、その中で、本県での、先ほど御説明させていただきましたように、サイクルツアー、宮崎を自転車で旅してみたいという関心度は２割強ということで、決して多くはない、まだ数字だとは思っております。

ただ、一方で、既に、先ほども日南海岸でのそういう実践の事例もあるというようなお話をさせていただきましたけれども、可能性として、やはり、これから認知度を高めることによって、宮崎に受入体制も整備する形で、宮崎に来ていただく可能性というのは、伸び代まだまだあるのかなというふうに考えております。

○井本委員　いやいや、ようわかった。

○岩本観光推進課長　そこの厳密な調査はしておりませんけれども。

○井本委員　いや、私は、そのエビデンスをしっかりしとるのかという話をしとるの。エビデンスもってからピシッと進めておるのか、何も根拠なくやっているのか、それを聞いておるだけのことよ。どっちなの、ピシッとしとるの。絶対成功するという根拠はあるの。やるなら、それを何もないままでやるな、と私は言っておるわけ。サイクリングをやろうと思ったら、日本中どこでも景色はいいんだからね、何で宮崎がそこに特化せないかんのか、って言っておるわけよ。

○酒匂観光経済交流局長　エビデンスというところに関しまして、実際やっているかどうかと言いますと、まだ具体的な調査はやっていません。

ただ、私の場合、今考えていますのは、サイクリングというのは、県外等も海外等も見ましても、今後新しいスポーツの一つになるんではないかと。

今回、試しとして、例えば、先ほどあったような日南の観光客の皆様方に向けて、ミニではありますけれど、小さなエリアでも回れるスポーツであろうと思います。特に、宮崎は天候もよろしいので、それが一つの県外との差別化の中で売りだと思っております。

いかに、どれだけ大きな規模でのサイクリングにできるかというのは、これからしっかりと、また把握していかなきゃいけないと思います。交通安全の状況、道路の状況、委員おっしゃったとおりだと思いますけれども、宮崎の特性の一つといいますと、やはりサイクリングというのは、今後、非常に可能性のある種目ではないかと思っておるところでございます。

○井本委員　もう、いいや。思ってるだけじゃいかんわけよ。ピシッとエビデンスを持ってやれと私は言っておるわけ。我々素人が考えれば、確かにサイクリングはいいだろうな、気持ちがいいだろう。しかし、私からすると、そのくらいの発想でやるなと言っておるわけよ。やるならば、今後、ピシッと本格的にやるんでしょう。やるなら、何で宮崎がここに優位的な立場に立っておるのかということをしっかりつかんでやれと言っているだけのことです。

○丸山スポーツランド推進室長　ほかの評価ということでちょっと補足させていただきますけれども、今、スポーツキャンプの関係で、トライアスロンのトップアスリートの方が日本代表や、イギリスチームなど、まさに本当のトップアスリートがトライアスロンの合宿として来ていただいておりまして、彼らの練習というのは、スイムやバイク、バイクといっても、日南海岸や西都原など、県内のいろんなところを、相当回っていただいております。

また、５月には、アイススケートのパシュートの方々が来られたんですけれども、このときのメーンの練習というのも自転車で県内、日南海岸を含めて同じように回られて、その中でお話をしますと、非常に高い評価をいただいておりまして、そういったところも、今後参考になるのかなと思っているところでございます。

○井本委員　わかりました。

○日高委員　自転車と言うと、ジャイアントが、しまなみ海道で本当に大きなレースをやって、今、台湾からどんどん来ているという話で、ブリヂストンがちょっと焦って、日本でも大会をやりたいという話とかいろいろ聞きますので、ぜひ、井本委員の言われたエビデンスをしていただいて、誘致していただきたいなと思います。お願いします。

○星原委員　さっき言った、キャンプに来た地域で盛り上げる話の一つとして、やっぱり教育委員会も巻き込んでほしいんですよ。私は、スポーツ少年団の都城の本部長もしているんで、今回、７月１日には、ソフトバンクから声がかかってきて、都城の子供たちを32名かな、呼ばれていって、向こうで試合前に選手とのふれあいとかいろんなことをさせて、試合を見て帰る。そういう案内が来るわけですよね。

宮崎でキャンプしているときに、県内のスポーツ少年団なり、中学校なり、高校なり、あるいは大学なりが、そういうところに交代ででも見に行く、応援に行ってくれる、そういう流れをつくると、やってくる選手たちは、やっぱりやる気を起こすわけよ。いろんな人たちが毎日交代ででも来てくれればね。さっきのＦＣ東京の話したけれど、この間、私が地元に言ったのは、高城の公民館というのが20の公民館があるわけよね。キャンプが20日間とか10日間来ているんなら、お年寄りだったら暇があったりいろ

いろするんで、２つの公民館の人たちで、団体で、毎日は大変なんで、それぐらいの地区が交代ででも行って、拍手でもしてやる、選手に握手でも求めてやる、そうすると、選手は地域のふれあいを感じると思うんですよ。そういったいろんな工夫をやっていかないと、今までと同じことで何かをやるだけじゃなくて、地域を巻き込んだ、あるいは、そういうスポーツ団体を巻き込んだ、いろんなやり方を工夫していかないと勝てないと思うんだよね。

もちろん、それは、施設の整備もピシッと、プロなり社会人が使えるぐらいの施設の整備も必要だろうけれども、地域の持っていき方を工夫する。今言ったように、スポーツ少年団なり、あるいは中学校だったら部活の子供たち、バレーが来たときはバレー、サッカーが来たときはサッカー、野球が来たときは野球、いろんなやり方があるんで、そうやっていくことで、子供たちも夢を持ったりとか、いろんなことで、教育委員会や地方の自治公民館などを巻き込めないか、そのために市町村と連携とったり、いろいろしながらやっていかないと、いろんなことが広がっていかないと思うんです。

来たときに、土産で肉10キロとか何十キロとか、マンゴーやったとかっていうのはあるけれども、じゃ、それだけで相手が満足するのかな、あるいは、来ている選手たちが満足するのかな、やっぱり自分たちの姿を見てもらう、あるいは、そうすると触れ合うことで応援をしてくれるわけですね、帰った後でもね、また来年来てくださいと。毎年のように、そういうことが繰り返されることが、地域を盛り上げての対応になるんじゃないかなと思うんですよ。

だから、これからは、そういうことまでひっくるめて考えていかないと、誘致する、誘致するっていってもなかなか来ない。要するに、ここでキャンプしている人たちはまず逃がさない、そして新しい人を見つけてくる。ふやしていくには、そういうことしかないんじゃないかなと思うんです。そういう面もひっくるめて、今後検討するんなら、教育委員会なり、あるいは、地方の公民館の人たちでも、地域でやっているキャンプには行ってもらうような流れをつくるためにどうするか、その辺、もうちょっと工夫したほうがいいんじゃないかなと思うんですが、どうですか。

○酒匂観光経済交流局長　星原委員、おっしゃるとおりだと思います。

受け入れているチームをしっかりと地元に残していくためには、さまざまな関係者がしっかりと力を合わせなきゃいけない。委員御指摘のありました、子供たちとの交流の機会を与えることで地元が歓迎している雰囲気づくりをする、それに参加した子供たちにとっても、教育的な効果も非常に高いと思っております。

市町村、関係団体、関係機関等々としっかりと協力してまいりますし、委員おっしゃたような提案につきましても、しっかりと、また検討してまいりたいと考えております。

○星原委員　ぜひ、検討してみてください。

○松村委員　先ほど、フランスの剣道のナショナルチームの話が出ましたが、テレビでもちょっと見ましたけれども、これは、きっかけというか、今回で何回目なのか、そのフランスの剣道がお越しになるにあたり、どなたが中心になってやっているのかとか、そういう全体像はわかりますか。

○丸山スポーツランド推進室長　昨年、フランス剣道連盟のエリックさんという会長さんがいらっしゃいまして、その方と、剣道の防具をつ

くっていらっしゃる本県の多田さんが、非常に交流を深めていらっしゃいまして、その御縁で、一旦、昨年、宮崎にお越しになったときに、知事に表敬いただきまして、その御縁から、ぜひ、また機会がありましたらというお話をしていたところ、ことしは、韓国で世界大会があるということで、せっかくですから、その世界大会の前に宮崎で合宿をというお話につながったところでございます。

○松村委員　多田さんの話っていうのは、県議会の傍聴にも来ていただいて、フランスを中心にヨーロッパの剣道愛好家というのは、数ももう日本を超えていると。その話も議会でもさせてもらったんだけれども、宮崎の鵜戸神宮というのは、武道の発祥の地ということで、それも議会のほうでお話しさせていただいたんだけれども、井本委員が言うように、エビデンスとしては、海外の愛好者としては、聖地として宮崎に来ていただくバックグラウンドはもう十分あるんだということの話は、もう随分前にしたんですけれども、ようやく向こうからお越しいただいたかなという気はしているんです。

これから、そのことを大事にストーリーにしていって、今回はナショナルチームでしたでしょうけれども、本当に好きな方というのは、一生に一度はその聖地を訪れたいというのがあるので、ここの物語を、しっかり大事にして仕掛けていく。剣道というと、プロ野球みたいにたくさんの方が来るわけじゃないけれども、でも、これも長くすることで、フレンドシップができてくるので。

空手は沖縄やっていますよね。もう積極的に空手の聖地としてやっています。武道の聖地ということは、鵜戸神宮もあるし、もう一つは神話の高千穂もありますので、全県化ということも可能性があるし、それと、国際化というか、ワールドクラスのスポーツの交流ができるんで、本当にいいフランスのナショナルチームの来県だなと思ったんです。これをまた続けていけるように、県の関与をもっと積極的にやっていただきたいなというのと、今、多田さんを中心に、ほとんど宮崎フランス友好協会等がやっていらっしゃるんですよね。この方々は、イタリアであった、ミラノ食の博覧会のときも、通訳とかを通じて、多田さんたちがやってくれているんですよね。

だから、せっかく剣道ということで、宮崎が日本でナンバーワンということを発信できるんで、ぜひ、これを次につなげるようにやってください。

○酒匂観光経済交流局長　今回、多田さんの縁を通じて、こういった機会をいただいて大変ありがたく思っておりますし、委員もおっしゃるとおり、この機会を通じて、しっかりと、がっちりとつかんでいって、次につなげていきたいと、我々も認識しております。

ちょうど７月上旬が、九州全体でフランスにミッションを派遣いたしまして、ちょうどワールドカップの関係でございますけれども、フランスの試合等も予定されている関係で、九州に来た観光客を九州のエリアに回すということで、九州全体のミッションとして、本県からは鎌原副知事にも行っていただく予定にしております。機会があれば、こういった関係団体も、もし時間があれば伺うような方向で検討してみたいなと思っているところでございます。

○松村委員　ぜひ、積極的にやってください。必要なときには、声かけていただければ、私も行きますから。また、頑張ってください。

以上です。

○井本委員　キャンプを見に来て、しかし、その後、観光地を回る人が少ないというのは、ちょっと、確かに、宮崎が余り魅力がないのかなと思ったりする。

でも、直接キャンプとは関係ないかもしれないけれども、今、彼が言われて、私も本当にそう思うけれども、聖地ね。宮崎県自体が、天皇家の聖地なのよ、本当は。梅原さんか、あの人が「天皇家のふるさと宮崎」を書いて、そのことを総務政策常任委員会でも私は言ったんだけれども。総合政策部長はまともに取り上げてくれんけれども。きのうの飲み会では、やっぱり職員の中で「先生、そのとおりですわ」と言うのがおって、私は気を強くしたんだけれどもね。本当に私自身も、宮崎は天皇家のふるさとなんだ、という、宮崎県人としてのプライドを持つことができたし、何であれをもうちょっと前に出さんのかというのが私は不思議でしょうがないんだよね。天皇家のふるさとって、わざわざ大学の教授が言うてくれとるわけやから、私たちが勝手に言っとるわけじゃないんだからね。記紀1300年ももうすぐ終わろうとしているのに、何かボーっとしたまま終わろうとして、もう一つパンチがないというね。

宮崎の観光にそういうものを取り入れて、例えば、今出たサイクリングであれば、天皇家の関係あるところを見て回りましょうというサイクリングをするとか。

あのね、皆さん方は当たり前に思うとるかもしれんけれども、日本中、宮崎県から神武天皇が出たというのを知らない人ばっかりなんですよ。皆、当たり前と思うちょるでしょう。宮崎県は神武天皇が出たところですよ、と、来た人たちに教えるだけでも、私は全然意識が変わってくると思うんです。

その神武天皇が出てきた根拠となる場所を訪ねて歩きましょうとか、意味を持たせる観光をやらんと、もう宮崎県は今後伸びていかんのじゃないかと、私は、そんな気がしておるんだ。はっきり言って、私に言わせると、神話のふるさとというようなのはパンチが弱いんですわ。もうちょっと強く、この古事記に書いてある世界、つまり天皇さんが出たところですよということを、私は言ってもいいんじゃないかなという気はするんだけれどもね。知事がどうも、何かうにゃうにゃと言うておったもんだから。覚えちょるでしょ、清山くんが、「神武天皇は宮崎から出たと思いますか」と知事に聞いたわね。知事は、うにゃうにゃって答えて、その後、次の議会で、中村さんが、「知事、あのとき、私はようわからんかった、もう一回聞くけれども」って言って、そこで知事が初めて「そうです。宮崎県から出たと思います」って言ったけれども、私に言わせると、本当に宮崎県の知事だったら、「当たり前ですよ」と言うのが当たり前よ。「何を言っとるんですか、宮崎県から出て当たり前でしょう」と言うのが当たり前だ。この辺は、私はちょっと、ううんと、この知事は大丈夫かな、という気がするんですね。

本当にいい宣伝の材料はあるんだから、もっと使うべきだと。私は、ここは天皇が出たところと、あの本を読んで本当にうれしかったよ。私は、それをもっと前面に出していいんじゃないかという気がするんだけれどね。

きのうは、その飲み会でそうやってしゃべるんで、私はそうかと思ったもんだから、その辺はどうなの。

○酒匂観光経済交流局長　本県にとりまして、委員おっしゃったような点は、他県と比べてのメリットだと思っております。大いに打ってい

かなければいけないと思ってはおりますが、本県には神話がございまして、日本書紀、古事記がございますし、先生おっしゃるような、誰々教授がそういったことを言っているとおっしゃられたことにつきましては、どういう表現をしていくかというのも工夫する余地はございますし、こういった古事記、日本書紀の視野に基づいたものにつきましては、しっかりとＰＲしていきたいと思っております。

○井本委員　部長、どうなんですか。ちょっと、考えんね。

○井手商工観光労働部長　本県の持てる強みの大きなものだと存じております。

記紀1300年のお話が出ましたんで、2020年が集大成の年ということで、現時点で、総合政策部ともいろんな意見交換をしております。きちんと打ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○井本委員　検討しておいてください。

○西村副委員長　すみません。２点ほど、聞きたいことがありまして。

今回もサーフィンのことを挙げられていまして、日向もそうですし、私も九州のサーフィンの役員をしていますけれども、九州の中でも宮崎を目指していくという流れは非常に大きいものがあります。

ただ、私もサーフィンを多少したことあるんですけれども、お金が落ちないんですね。

今回のこのテーマというのは、やっぱり観光を通じてお金を落としてもらう、キャンプに来た人に、プラス宿泊なり食事なりしてもらうと考えたときに、サーフィンに関しては、非常に多くの方々が九州内からも来られて、見ると、駐車場はほとんどが無料、そこに大きな車で来て、そこで寝泊まりして、サーフィンやって、お昼も近所でちょっと食べるとか、コンビニで何か買って食べる程度で、なかなか波及効果がないということで、ずっと言われています。

他方では、道路整備してくれ、シャワーを設備してくれ、トイレを整備してくれということで、非常に多くの税金が投入されている中で、これを波及させないと、本当に意味はないんですよね。もう、本当、ただのいい人なんですよ。

サーファーの方々が言うのも、宮崎いいですね、お金かからないしっていうことなんですよね。そしたら、何をやっているんだということなんですよ。

私は、前から、日向でも、１日500円でも300円でもいいけれども、せめて駐車料金とって、それをやることによって、一部は地元の掃除してくださる自治会にやるなり、と言っています。掃除する自治会の方々もかわいそうですよ、自分たちは汚していないのに、毎回掃除するわけですよ。

そういうのを踏まえたときに、これが問題なのは、日向だけでやっちゃうとだめですよ。日向に来る予定だった人が延岡、高鍋にサーフィンに行けばいいだけの話なんで。これ、できれば県下同一歩調で、何かしらお金を落としていけるような手段というのを考えないと。これは、時々あるんですよね、地元の方々とサーファーの方々の対立というか、いざこざというか、そういうのにもつながりかねませんので。

せっかくサーフィンという、自然を生かした、非常に宮崎県のいいところを伸ばしていただくための取り組みというのを、もうそろそろ真剣に考えてもらわないと、宮崎県の自治体も含めて、ただのいい人で終わってもらってはならないと思います。

もう一つです、キャンプのシーズン、非常に

多くの運動施設が利用されるんですけれども、一方では、もうずっと、ドームだろうが運動場だろうが、野球場だろうが、もう押さえられてしまって、その時期は県民が使えないんですよね。そういう意味では、やっぱり県民も非常に多くの犠牲を払ってキャンプ誘致をしているという感覚を、ぜひ、わかっていただきたいというのがあります。

よくあるのが、１カ月ずっとクローズとかするわけですよ。この時期はキャンプが来るとか、Ｊリーグが来るとかってやるんですけれども、実際、フルで24時間、その１カ月とかを丸々使っているわけじゃないんですよね。ぜひ、あいた日は地元の方に使わせるとか、夜は大丈夫とか、そういうのをもう少し県も徹底していただきたいなという思いがあります。

県の施設は、身近にあるところは少ないでしょうけれども、市町村においては、それぞれの市の体育館とか市の運動場も、本当に１カ月間貸しっ放しということもありますので、キャンプ来てくれるのは非常にありがたいんですけれども、そこは、地元の人たちの税金でつくっている設備なもんですから、そこはやっぱり忘れていただきたくないなと思って、この２点だけ、申し上げておきます。

○岩本観光推進課長　私から、まず１点目のサーフィンのお金が落ちないんじゃないかという件ですけれども、私のほうも、いわゆるサーファーのイメージは車で来て、寝泊りしてというのがあったんですが、今回の調査で、意外にそうではないという部分もちょっと見えてきたものですから、ちょっと御紹介させていただきたいと思います。

今回の調査によりますと、サーフィンで宮崎に訪れた方の旅程と、あと宿泊先も確認をしております。その中で、ホテルに２泊以上された方が28％、それから１泊という方が26％、民宿に２泊以上された方が10.5％、あと車中泊が7.5％ということで、６割以上の方はホテルあるいは民宿等に宿泊しているというのが、実は、今回の調査では明らかになったところであります。イメージと実態はちょっと違うんだなというのは思ったところであります。

ただ、実際、どうなのかというところはありますけれども、今回、日向のほうで国際サーフィン大会も開催されましたけれども、海外のサーファーと、あるいは、日本のサーフィンの文化のまだレベルの違いとか、あるいは、県民なり国民によるイメージの違いというものもあろうかなと思っていますけれども、今回のような国際大会をやることで、また、県民の間にも意識の変革といいますか、そういったものが起きてくるのではないかなと。そういった中で、また、消費に結びつくようないろんな仕掛けというのも、迎える側としてもいろいろと考えていく余地が出てくるのではないかなというふうに思っておりますので、委員の御指摘もあったようなことも十分に踏まえながら、しっかりとそのあたりは対応していきたいなと思っているところです。

○丸山スポーツランド推進室長　２点目の施設の利用の関係でございますけれども、委員おっしゃいましたとおり、スポーツランドの推進、県外からの合宿誘致というのは、まさに県民、それから地元の人たちの理解のもと、そこの使用を県外の方、合宿に使わさせていただいている実態はあろうかと思います。

その理解のもとで、今、こういったスポーツランドみやざきというのは推進しているわけですけれども、やはり市町村と、今、全県化のい

ろいろ協議を進めている中で、市町村の御意見としまして、地元の方を優先に使いたいという声は出ておりますというところはお聞きしております。

そこが一番、今後、スポーツランド推進を進める上での一番大事なポイントじゃないかと思います。地元の理解があって初めて、この施策というのは進められると思いますので、この辺、関係市町村、それから関係機関と連携しながら、しっかり検討してまいりたいと思います。

○西村副委員長　ありがとうございます。サーフィンの件は、私も何十年か見ていてわかるんですけれども、非常に高齢化という言い方は悪いんですけれども、高齢というか中年、下手したら60歳以上ぐらいになられてもサーフィンを続けられる方が非常にふえてきて、その方も昔は若いときはその辺で車とめて寝ていたという人も、さすがにつらくなったとか、あとは、子供と親子で来るようになって、さすがにホテルじゃないと、とかというので、だいぶん泊まる率というのは、僕は高くなっていると思うんですよ。生涯スポーツみたいな感じで、非常に長い期間やられるスポーツだと思うので。

そういう意味で、少しニーズの変化ができてきたのかなと思うんですけれども、やっぱり、どうしても若い人たちのグループの中では、車に泊まる。車に泊まると、やっぱりそこら辺でバーベキューやったり、いろんなことをして、周辺を汚してしまうということが現実にあるもんですから。確かに、おっしゃるとおり、率としては、だんだん宿泊に移行している部分もありますけれども、一部で、やっぱり１割程度ぐらいの人たちは、どうしてもそこにとどまって泊まってしまうということで、何かしら、片やもうただで、片やちゃんとホテル代を払ってというので、差が出てくるのもどうかなと思います。気にとめていただければと思います。

○井本委員　サーフィンは、もう学生やら何やら、本当、安くできるという感覚が、そういう先入観があるんじゃないかと思う。だけれども、私の感覚で、やっぱりサーフィンというのは、本当は優雅な、それで、金持ちがやる遊びじゃなかったのかなという気はするんだけれども、何か日本では、とにかく安っぽい、安いみたいなことになってしまっているようにあるからね。あれを宣伝させるというか、そういう工夫というのは、やっぱり先進国、例えばハワイなんかがサーフィンの中心なんでしょう。一遍、あの辺がどんなふうなやり方をしているのかを見てきてもいいんじゃないかなと私は思うんだけれどもね。

○岩本観光推進課長　先進地視察というのもありますが、昨年、先ほどもちょっとお話ししました、日向で世界ジュニアサーフィン選手権というのが開かれまして、世界から41カ国、地域から多くの選手が訪れて、地元との交流も本当に深められたというようなことで、そんな交流を今後とも、そういった国際大会を誘致することなどを通じて、そういった文化の違いだったり、ノウハウ等についても吸収していけたらなというふうに考えております。

○黒木委員長　ほかに質問はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　ないようでしたら、以上で終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　執行部の皆さんは御退席いただいて結構です。どうもお疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時39分休憩

午前11時41分再開

○黒木委員長　それでは、委員会を再開いたします。

協議事項に入ります前に、前回の委員会で決定されました調査事項等について、参考資料に記載しておりますので、御確認ください。

それでは、協議に入ります。

協議事項（１）県内調査についてであります。

まず、７月26日から７月27日に実施予定の県南調査ですが、資料１をごらんください。

前回の委員会におきまして、県内調査先についても正副委員長に御一任いただきましたので、ごらんのような日程案を作成しました。

まず、７月26日ですが、小林市にあります「北きりしま田舎物語推進協議会」を訪問し、県内外の学生や生徒を対象に、受け入れを行っている農泊に関する取り組みについて調査をする予定です。

次に、鹿児島県に移動し、鹿児島県旅行業協同組合を訪問します。

当組合が企画・販売する着地型観光「魅旅」の取り組みや、高校生などを対象とした「着地型旅行プランコンペ」などについて調査を行う予定です。

その後「特定非営利法人鹿児島グルメ都市企画」を訪問し、鹿児島中央駅前で展開している「かごっまふるさと屋台村」の取り組みについて調査を行う予定です。

翌日の27日は、鹿児島県庁を訪問し、維新150周年を機とした観光施策やインバウンド対策などについて調査を行う予定です。

この後、鹿児島県庁のそばにあります鹿児島県立鴨池陸上競技場に移動し、鹿児島国体の現在の状況について調査を行うとともに、当競技場の現地視察を予定しております。

最後に、宮崎市生目の杜運動公園を訪問し、スポーツキャンプの受入状況や、スポーツキャンプを活用した観光施策、また、陸上競技場の改修状況等について調査を行う予定です。

以上のような行程で考えております。

なお、県南調査につきましては、調査日が迫っていることから、調査先との調整もある程度進めさせていただいておりますので、できれば、この案で御了承いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、そのように決定いたします。諸般の事情により、若干の変更は出てくる場合もあるかもしれませんが、正副委員長に御一任をいただくということでお願いをいたします。

なお、調査時の服装につきましては、夏季軽装にてお願いいたします。

続きまして、８月８日から９日に実施予定の県北調査についてであります。

次回の委員会は、７月20日に開催予定でありますので、そこから県北地区の調査まで余り時間がないため、早目に視察先を選定しておく必要があります。

正副委員長でも、調査事項を踏まえた視察先をあらかじめ検討したところですが、県南地区では調査していないスポーツツーリズムやクルーズ船などを中心に、次のような候補先を今、上げております。

例えば、スポーツツーリズムとして、今話題になりました日向市のサーフタウンの取り組み、それから、国体施設予定地の現状確認として延岡市民体育館の現地視察、インバウンド対策と

して、阿蘇にあります日本文化体験施設の取り組み、他県での人気観光地の事例として、熊本城での観光客の受入体制や体験型施設の取り組み、大型クルーズ船を活用した観光振興として、八代港での取り組みや現地の施設見学、これらを視察先の候補として、今、上がっているところであります。

今、申し上げました素案も含めて、調査事項や視察先について御意見・御要望があれば、お伺いしたいというふうに思います。

特にありませんでしょうか。

特にないようであれば、内容につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと存じますがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、そのような形で準備をさせていただきたいと思います。

次に、協議事項（２）の次回委員会についてであります。

次回委員会につきましては、７月20日金曜日に開催を予定しております。

次回の委員会での執行部への説明資料要求について、何か御意見や御要望はありませんでしょうか。（「７月20日」と呼ぶ者あり）７月20日です。次の委員会です。

特にありませんでしょうか。

○井上委員　委員会がおもしろいか、おもしろくないかって言われると、おもしろくない。

なぜかというと、井本委員とか星原委員から出ているようなことに対し、答弁することに集中しておられて、本当の意味で議論にかみ合っているとは、とても思えないですよね。だから、井本委員が言われたエビデンスという問題なんかも、答えられるのかといったら、全然、そういう考えを持っていらっしゃらないんじゃないのかなというふうに思わざるを得ない。だから、観光という考え方をどんなふうに考えておられるのか、ちょっとよくわからないんだけれども、スポーツキャンプだけを言われると、じゃ、一般に観光でこっちに来られるオルレの問題とか、いろんな問題はどうするのかなとか思ったりするわけです。

だから、本当に宮崎県の観光の魅力はどこに持っていきたいのかというような何かが、ちょっといまいちよくわからないなと思いながら、ちょっと、きょうは聞いておりました。

だから、何を言われても答弁はされるんだけれど、答弁がかみ合っているかというと、かみ合ってはいないように思えてならない。だからといって、どうしていいのかが、私もちょっとわからない。商工観光労働部はこの５年ぐらい、ちょっとわけがわからないので、私も聞いていてもわからないところがいっぱいあるんですけれどもね。どう攻めていいのか、どういうふうに言えば、かみ合った議論になるのか、そこがよくわからない、何か、ちょっとそういう印象を持ちます。

○黒木委員長　暫時休憩いたします。

午前11時47分休憩

午前11時55分再開

○黒木委員長　今、言われたことを参考にして、次の委員会を予定したいと思いますので、それでよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、ただいまの御意見を参考にして、次回の委員会の説明資料、または計画したいというふうに思います。

最後に、その他で何かありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　なければ、次の委員会は７月20日金曜日午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で、本日の委員会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

午前11時55分閉会